

令和2年度  
事業報告書

社会福祉法人うめの木学園

## 1、利用者の状況

月	就労継続B型	生活介護	入所支援	うめの木ホーム	放課後等デイ
4月	677名	1,251名	1,433名	240名	57名
5月	592名	1,071名	1,463名	248名	120名
6月	701名	1,272名	1,398名	240名	207名
7月	672名	1,216名	1,441名	245名	199名
8月	604名	1,097名	1,426名	217名	173名
9月	640名	1,156名	1,408名	210名	188名
10月	715名	1,285名	1,421名	217名	198名
11月	609名	1,065名	1,358名	207名	170名
12月	607名	1,093名	1,388名	217名	189名
1月	497名	939名	1,378名	217名	86名
2月	565名	1,010名	1,267名	169名	168名
3月	752名	1,278名	1,426名	186名	193名
計	7,631名	13,733名	16,807名	2,613名	1,948名
平均/日	28.4名	51.1名	46.1名	7.2名	7.1名

月	支援センターうめの木		
	日中ショートステイ	宿泊ショートステイ	相談支援
4月	6名	0名	24件
5月	0名	0名	27件
6月	15名	12名	33件
7月	13名	12名	37件
8月	11名	6名	25件
9月	4名	6名	33件
10月	10名	31名	16件
11月	17名	15名	22件
12月	7名	11名	27件
1月	4名	0名	32件
2月	4名	0名	25件
3月	5名	0名	11件
計	96名	93名	312件
平均/日	0.1名	0.1名	

※各事業の利用者数は、利用延べ人数を記載。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ショートステイ受け入れを制限しました。

## 2、行事報告

月	日	事業内容	備考
4	11	うめの木喫茶	
	24	避難訓練	日中活動中、通所棟のみ、夜間想定の3パターンで実施
5	5	うめの木喫茶	
	16	うめの木喫茶	
6	2	理事会	
	6	うめの木喫茶	
	18	評議員会、理事会	
	20	うめの木喫茶	
7	8	県民一斉防災訓練	
	11	うめの木喫茶	
	25	うめの木喫茶	
	30	歯科検診	利85名
8	8	うめの木喫茶	
	29	うめの木喫茶	
9	5	うめの木喫茶	
	19	うめの木喫茶	
10	8	婦人科検診	利18名
	9	県指導監査	
	10	うめの木喫茶	
	24	うめの木喫茶	
11	7	うめの木喫茶	
	21	うめの木喫茶	
	24	後期定期健康診断 <身体計測、血圧測定> <嘱託医健診、検尿> <胸部X線> 26日実施 <血液検査> <心電図> インフルエンザ予防接種	利77名 対象…入所・通所全員 対象…入所・通所全員 対象…入所・通所全員 対象…入所 対象…入所の40歳以上 利63名
	26	胸部レントゲン	利83名
	30	ゆるスポーツ(リモート)	
12	5	うめの木喫茶	
	8	理事会	
	17	干支入魂式(代表者のみ)	
	19	うめの木喫茶	
	24	クリスマス会	利78名
1	22	初詣(代表者のみ)、左義長	
	23	うめの木喫茶	
	26	避難訓練	日中活動中、通所棟のみ、夜間想定の3パターンで実施

月	日	事業内容	備考
2	6	うめの木喫茶	
	20	うめの木喫茶	
3	11	ミニコンサート(入所)	
	15	ミニコンサート(通所)	
	26	理事会	

※新型コロナウイルス拡大防止の観点から、主要行事を中止しました。

### 3、職員の研修状況

月	日	研修内容	参加者
8	11	石川県発達障害支援アセスメントツール基礎研修	相談員 1名
	21	金沢市近郊相談支援事業所説明会	相談員 1名
	27~28	リスクマネジメント実践研修	支援員 1名
9	8	石川県発達障害支援関係機関研修会	相談員 1名
	2.4.7	就業支援基礎研修	支援員 1名
	16	石川県発達障害児家族の集い公開講座	相談員 1名
10	5	発達障害講座	相談員 1名
	12	障害施設初任者研修	支援員 1名
	16.31	障害施設中堅職員研修	支援員 1名
11	10.11	OJT指導者養成研修	支援員 1名
	19	薬について学ぶ講習会	支援員 1名
	20	発達障害者等相談支援従事者育成研修	相談員 1名
	16.25	障害施設リーダー研修	支援員 1名
	26	ボランティアコーディネーター研修	支援員 1名
12	4	精神障害者地域生活支援事業研修会	相談員 1名
		相談支援担当者難病研修会	相談員 1名
	6	コロナ渦の施設ケア講座	サビ管 1名 看護師 1名
	9.10	サービス管理責任者等基礎研修	支援員 1名
	12	会計実務セミナー	施設長 1名
		石川県院内感染対策講習会	サビ管 1名 看護師 1名
	15	応援職員のための感染防止研修	支援員 1名
	17	サービス管理責任者等基礎研修	支援員 1名
		感染症対策研修	施設長 サビ管1名 看護師
	18	コミュニケーション技法実践研修会	支援員 1名
19	ストレスマネジメント研修	支援員 1名	
1	18.19	強度行動障害支援者養成研修	支援員 1名
	31	栄養部、研修委員会合同研修	サビ管 1名 支援員 2名
2	4	サビ管研修	支援員 1名
	25	サビ管更新研修	サビ管 2名
3	2	感染症対策実技研修会	サビ管 1名 看護師 1名

※新型コロナウイルス拡大の影響で、研修会の多くが中止になりました。

#### 4、ボランティア受入状況

月	日	活 動 内 容	名 称 等
7	15	窓ふき外	小松たばこ販売組合10名

#### ○クラブ活動等定期ボランティア

* 太鼓クラブ	* ビーズクラブ	* 3B体操	* 手話
---------	----------	--------	------

#### ○うめの木ボラ パン販売・出前喫茶ボランティア

##### (1) 定期

- ① パン販売 老人施設(みゆきの郷) 月2回  
能美健康センター 月1回  
小松市社会福祉協議会 月1～2回

- ② 出前喫茶 学園において 月2回

##### (2) イベント関係

地元イベント、小松市・能美市主催イベント、福祉関係イベントなどに出店

#### ○その他定期ボランティア

- \* 出張散髪 村田理容店(月2回)
- \* アロママッサージ 川崎氏 (1回)
- \* 紙芝居、ハーモニカ 高辻氏、北道氏(0回)
- \* 手話コーラス 倉本氏(0回)
- \* 歌謡ショー 紬の会(0回)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ボランティア受け入れを制限しました。

#### 5、施設視察・見学及び実習の受入状況

月	日	受 入 内 容	名 称 等
9	23～10/2	職場体験事業	小松特別支援学校 1名
11	9～13	職場体験事業	小松特別支援学校 2名
	16～20	職場体験事業	小松特別支援学校 1名
12	16～22	職場体験事業	小松特別支援学校 1名

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、見学、実習等の受け入れを制限しました。

## 6、補助事業の状況

### 1、多機能型簡易居室設置

(1) 事業費	8,745,000円
(2) 資金内訳	
① コロナ緊急包括補助	6,000,000円
② 自己資金	2,745,000円

### 2、その他補助金

(1) 新型コロナ感染症緊急包括支援事業補助金	14,673,000円
(※上記、多機能型簡易居室設置 6,000,000円を含む)	
(※職員への慰労金 4,300,000円を含む)	
(2) 小松市障がい者施設等経営モデルチェンジ支援補助金	987,000円
(3) 小松市福祉送迎用車両感染症対策支援補助金	313,279円
(4) 石川県生産活動活性化支援事業費補助金	500,000円

## 7、学园内整備事業（自己資金による整備） ※100万円以上掲載

① 受水槽取替	1,430,000円
② 屋根修理(体育館・ワークセンター)	1,584,000円
③ スプリンクラー用発電機取替	2,750,000円
④ パーティション設置(ワークセンター)	1,034,000円
⑤ 送迎用車両購入(トヨタ・ノア)	1,520,000円

## 8、苦情解決制度利用状況

【今年度該当なし】

## 9、事故報告状況

分類	件数	備考
興奮・他害	17件	
転倒・転落	25件	実人数14人
誤薬	11件	
内、与薬忘れ	3件	
内、落薬	2件	
ケガ	8件	
内、不可抗力	2件	利用者間トラブル
内、職員配慮不足	3件	
不適切行為	3件	利用者による不適切行為
器物破損	1件	
窒息	1件	※窒息には至っていない。(食事をのどに詰まらせ、むせる。)
その他	8件	・履物間違い ・血糖値測定漏れ ・利用者の持ち物を誤って破損 ・見守り不足 ・所在不明 ・飛び出し 等
合計	74件	

## 10、地域における公益的な取り組み

### (1) 施設の地域開放

- ① 小松市との間で『福祉避難所として民間社会福祉施設等を使用することに関する協定』を締結
- ② 石川県立小松特別支援学校に駐車場を提供（行事の際及び増築工事期間中）
- ③ 石川県立小松特別支援学校にミニコンサート会場として体育館を提供（2年度は新型コロナ感染防止対策のため中止）
- ④ 地元老人会に活動場所を提供（2年度は新型コロナ感染防止対策のため中止）

### (2) 地域づくり活動

- ① 限界集落になっている地元町内の公民館等周辺の草刈り
- ② 地区民生委員と連携し、地元町内の見通しの悪い場所の除雪
- ③ 高齢化が顕著になりつつある稲作農家に対し、低料金にて、育苗箱の引き取り、洗浄、JAへの返却を代行
- ④ 地域行事の際のテント貸し出し、職員派遣、物品販売の協力（2年度は新型コロナ感染防止対策のため中止）

### (3) 実施している社会福祉事業の延長上の活動

- ① 生活困窮利用者（通所）の食費免除
- ② 家庭の特別な事情を考慮したサービス提供（時間外支援、入浴機会の提供等）

### (4) 実施している社会福祉事業を受け皿とした公益的活動

- ① 障害者手帳等を有する職員を雇用

### (5) 社会福祉の向上に向けた活動

- ① 福祉系大学・短大及び専門学校からの実習希望者を積極的に受け入れ
- ② 社会福祉協議会等が実施する福祉の仕事体験希望者を積極的に受け入れ（2年度は新型コロナ感染防止対策のため中止）
- ③ 地元の特別支援学校生徒の実習及び職場体験の積極的受け入れ
- ④ 全国障害者スポーツ大会への職員派遣（役員として）（2年度は新型コロナ感染防止対策のため中止）

### (6) その他の活動

- ① ペットボトルのキャップをワクチンに交換する事業（エコキャップ運動）に協力
- ② 公益財団法人が実施している義援金活動に協力（職員による100円募金）
- ③ 公益財団法人日本財団が実施している「夢の貯金箱」事業に協力

## 11、職員処遇改善事業

『福祉・介護職員処遇改善加算』及び『福祉・介護職員等特定処遇改善加算』を取得し、職員の賃金向上を図りました。

『福祉・介護職員処遇改善加算』においては、算定要件に対応すべく、給与体系見直し等の体制整備を行い、『区分Ⅰ』を維持しました。

併せて、以下のとおり職場環境等の改善に継続して取り組みました。

- ①働きながら資格取得を目指す職員に対して、勤務の弾力化。
- ②資格取得者に祝い金の支給。
- ③より専門性の高い支援技術を取得しようとする職員に対する勤務の弾力化。
- ④全ての支援員がサービス管理責任者の資格を取得することを目標に、順次研修に派遣。
- ⑤雇用管理改善のため、管理者が雇用管理に係る研修を受講。
- ⑥現場職員の腰痛対策を含む負担軽減のための介護機器の導入。(機械浴、エレベーター、電動昇降ベッド、ストレッチャー等)
- ⑦子育てとの両立を目指す職員のための育児休業制度等の充実。(一般事業主行動計画策定による。)
  - \*男子職員 1名 「育児のための深夜業の制限」を活用中
  - \*女子職員 1名 育児休業取得中(1年間の予定)
- ⑧マニュアル作成による業務の明確化。
- ⑨障害を有する者でも働きやすい職場環境構築や勤務シフトの配慮。
- ⑩非正規職員から正規職員への転換。
- ⑪短時間正職員制度の導入。
- ⑫職員の増員による業務負担の軽減。
- ⑬OJTチーム発足による、新人職員への仕事面・メンタル面でのサポート。
- ⑭年次有給休暇を、採用後6か月を待たず、採用日より支給。(取得促進支援)
- ⑮見守りカメラ、センサーマットの導入。(異状の早期発見による業務負担軽減)
- ⑯職員の研修機会を増やすため、WEB研修を導入。(令和3年度より本格導入予定)

## 12、放課後等デイサービス事業における自己評価の実施

放課後等デイサービス事業について、管理者と現場職員それぞれの視点から自己評価を行いました。

評価結果については、次頁に掲載し、本「事業報告書」をもって公表することとします。

また、自己評価と併せて、保護者にもアンケート調査という形で評価を依頼しました。結果については、集計の上、書面にて保護者にお伝えしました。



		チェック項目	管理者 の観点	現場職員 の観点	分析結果
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○	○	* 個別ブース、広い活動場、休憩できる部屋等、用途に応じた部屋を備えている。
	2	職員の配置数は適切であるか	○	○	* 安全確保に必要な人員を配置している。 * 玄関以外はバリアフリー。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○	△	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○	△	* 職員が参画できる体制にはなっている
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○	○	* アンケート調査で意向を把握し、意見を反映できるよう努めている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○	△	* 令和3年3月、ホームページ完成。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	×	×	* コロナ禍で、外部研修派遣は困難であったが、令和3年度、職員が自由に参加できるWEB研修を導入する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	△	△	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○	○	* 保護者への聴き取りは、時間をかけて行っている。ニーズや課題を計画に反映
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	×	×	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○	△	* プログラムが固定化しないよう工夫しているが、こだわりの強い児童が多く、新しいことになかなか取り組めない。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○	△	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○	△	* 長期休暇にしかできないプログラム作りに工夫している。普段は個別活動を中心に取り組んでいる。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	△	○	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	△	△	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	△	△	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○	△	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○	○	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	△	△	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	△	○	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○	○	

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	—	—	* コロナの影響で、会議の開催や参加が困難であったが、電話等を通じて、学校、関係機関、保護者等との連携・情報共有に努めた。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○	△	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供しているか	○	○	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	△	△	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	×	×	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○	△	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○	○	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	×	×	
	保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○	
31		保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○	○	
32		父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	×	△	
33		子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○	○	
34		定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	△	△	
35		個人情報に十分注意しているか	○	○	
36		障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	△	
37		事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○	×	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	△	△	* 緊急時のマニュアルは作成しているが、職員が十分に把握しているとは言い難い。WEB研修等を通じて、非常時の対応について理解を深めていくこととする。  * 避難訓練は最低年2回、虐待防止研修は年1回実施している。  * 事故発生時は、原因分析、経過調査、対策検討を十分行っている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○	○	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○	○	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	—	—	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	—	—	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○	○	

○ …はい

△ …どちらともいえない

× …いいえ

— …該当なし